

平成25年度 H中学校

研究テーマ

個に応じた適切な指導とは何か —個々の教育的ニーズに応じた支援の形—

1. 課題設定の趣旨

本校では、障がいのある生徒の理解に努め、自立に向けての可能性を最大限伸ばすことを目指し生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っている。その中で、特別支援学級や通常学級での授業内容の検討や授業への入り込みなど、通常学級の生徒も含め、全教職員共通理解のもと、関わるができるよう取り組んでいる。

個々の希望や教育的ニーズに応えつつ、「共に学び、共に育つ仲間作り」をどのように推進していくか、関係諸機関と連携し生徒を取り巻く諸問題をいかに解決していくかが大きな課題であると捉えている。

2. 実践・研究の計画、方法

(1) 通常学級における支援

授業や学級活動の入り込みを積極的に行い、通常学級の生徒も含め自然な関わりを通して学習・コミュニケーションの支援を行う。

(2) 特別支援学級における支援

生徒一人一人の障がいの状況に合わせ、個別の課題や小集団での学習活動を行う。

(3) 関係諸機関との連携における支援

こども相談センターや放課後等デイサービスといった関係機関と連携した包括的な支援を行う。

3. 実践・研究の内容

(1) 入り込み支援による、コミュニケーション支援と障がい理解教育

実技を伴う教科を中心に入り込み支援を行った。協調運動に困難のある生徒一人一人に個別に丁寧に指導を行うと共に、コミュニケーションスキルに課題のある生徒の支援を行った。また、支援者は生徒集団の中に溶け込み、関わり合いのモデルとなるよう支援を行った。それにより、コミュニケーションスキルに課題のある生徒は支援者をモデルとしつつ活動し、周囲の生徒は、支援者と課題のある生徒の関わりをモデルとして活動を行う事ができた。

この際、支援者の支援を減らすタイミングと、生徒同士の関わり合いの中で好ましい関わりかけに対し即時的に褒めるなど、生徒同士の好ましい関わりを強化し、支援者によるコミュニケーション支援を減らすことで、継続的な人間関係を形成できるよう努めた。

(2) 個別の教育支援計画に基づく一人一人の教育的ニーズに応じた指導

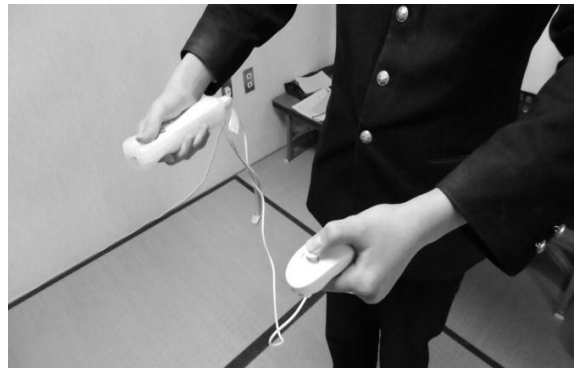
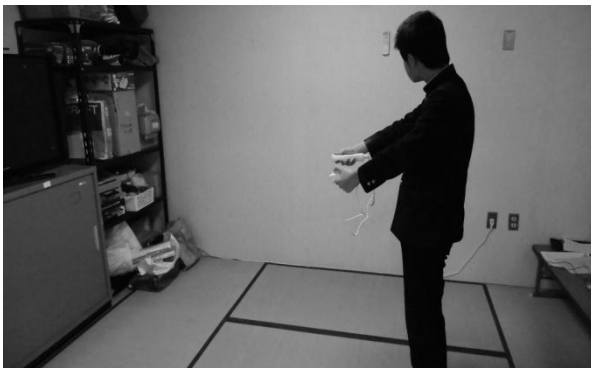
巡回相談での助言や実態把握に基づき個別の教育支援計画を見直し、個々の指導を行った。その中でも、特に体幹や姿勢、協調運動について重点を置き指導を行った。体幹の強化→姿勢の保持→協調運動や手足の巧緻性→注意集中の持続とつながりを意識し取り組みを行った。



バランストレーナーの利用



バランスボールの利用



TV ゲームの利用 (左右の協調運動)



ダンスエクササイズ (全身の連動)

(3) 中央通所ルームと協力した支援

不登校傾向があり、保護者とも連携がとりづらい生徒について、こども相談センターの中央通所ルーム A と連携し指導を行った。1 学期は、中学校にほぼ登校できず、こども相談センターに相談、生徒は週 1 回カウンセリングに通うことができた。また、スクールカウンセラーとも協力し週 1 回家庭訪問を行った。8 月の夏期休業中には特別支援学級の栽培活動に参加するために登校することができた。2 学期には、週 1～3 回短時間の別室登校ができるようになり、10 月には文化活動発表会に学年の仲間と共に参加することができた。その後も、引き続き週 1～3 回の短時間の別室登校が続いているが、今後も継続してこども相談センターと連携し、生徒の支援にあたって行きたい。

4. 実践・研究のまとめと今後の課題

特別支援学級には、様々な障がい種別、発達段階の生徒が在籍し、教育的ニーズ、生徒・保護者の要望も様々である。それらに最大限応えるためには、生徒一人一人の実態把握が必要不可欠である。また、教育的ニーズに応じるために必要な専門性も多岐にわたるため関係諸機関や専門家チームと連携することで、より効果的な指導を行うことができる。

今後は、関係諸機関との連携をさらに強め、巡回相談や専門家チームからの協力も得て教育が合理的かつ効果的におこなえるよう、さらに研鑽を深めたい。